

面舵 いっぱい

島浦針路通信



平成27年4月6日 初版発刊
島浦中進学・進路関係通信社◎
面舵いっぱい：島浦針路通信
第04号 5月 1日(金)
編集長：新名 潤一

立腰教育

この【姿勢】を提唱されたのは、森信三（もり しんぞう）
1896年（明治29年）9月23日 - 1992年（平成4年）11月21日）という人です。（写真右）

森先生は、「腰骨を立てる」という姿勢について、次のように述べています。

「およそ、古来東洋において道と名の付くものはいやしくも茶道や華道、踊りや謡曲等の芸能に始まり、さらに弓道や剣道等の武道にいたるまで、全てこの根本の姿勢というか態度を厳しく言ったものであります。」



「立腰」のポスターは1F階段登り口に掲示！

では、腰骨を立てる指導をすると、どのような効果があるのか。

福島県下川俣小学校の校長先生をされていた伊藤武司氏は、立腰教育に取り組み、その効果を次のように挙げています。

第一 聖心が明晰（めいせき）になる。

一、頭がはっきりして、何事にも一意専心できるようになる。

二、判断力が明敏（めいびん）になり、実践的叡知（えいち）が身に付いてくる。

三、心が引き締まり、やる気が湧いてくる。

理科：3年教室



第二 主体性が確立する。

一、集中力がつき、持続ができるようになる。

二、進んで仕事に取り組み、積極的になる。

三、逆境や重責にも耐える力が付き、実践力が身に付いてきた。

数学：2年教室



第三 健康になる。

一、立腰による正姿によって、内臓のいびつな圧迫がなくなる。

二、食欲不振がなくなり、身体が丈夫になる。

三、動作が敏捷になり、気分が明るくなる。

社会：1年教室



SSタイムの様子

「性根の入った子にする“極秘伝” —立腰教育入門—」より

森先生は、多くの名言を残されており、有名なものに、「学校職場の再建三原則」（時を守り、場を清め、礼を正す。）や、「しつけの三原則」、「凡事徹底」などがあります。下に、「しつけの三原則」を示します。

【しつけの三原則】

（一）朝のあいさつをする子に。それには必ず親の方からさそい水を出す。

（二）「ハイ」とはっきり返事のできる子に。それには母親が、主人に呼ばれたら必ず「ハイ」と返事をすること。

（三）席を立ったら必ずイスを入れ、ハキモノを脱いだら必ずそろえる子に。

3年生は実力テスト
に向け頑張ろう！あ
とは健康管理だっ！

文字ばかりになり、すみません！裏には3年生の素晴らし宅習を印刷しております！ぜひ参考に！